

2015年主要文献目録 (2015年刊行の文献を掲載対象としている)

\*国際法、国際私法の雑誌名は原則として法律編集者懇話会のものを使用した。略語表は『法律関係8学会共通会員名簿』又は『法律時報』各年1月号を参照。

国際政治・外交史

著書

〔一般〕

秋山 信将 (編)	NPT——核のグローバル・ガバナンス	岩波書店
旭 英昭	平和構築論を再構築する——日本はイニシアティブを発揮できるか (増補改訂)	日本評論社
足羽 與志子、中野 聡、吉田 裕 (編)	平和と和解——思想・経験・方法 (一橋大学大学院社会学研究科先端課題研究叢書)	旬報社
足立 研幾	国際政治と規範——国際社会の発展と兵器使用をめぐる規範の変容	有信堂高文社
有馬 純	地球温暖化交渉の真実——国益をかけた経済戦争	中央公論新社
猪口 孝 (監修)、山本 吉宣、黒田 俊郎 (編)	国際地域学の展開——国際社会・地域・国家を総合的にとらえる	明石書店
岩崎 育夫	世界史の凶式	講談社選書メチエ
植木 千可子	平和のための戦争論——集団的自衛権は何をもたらすのか	ちくま新書
馬田 啓一、小野田 欣也、西 孝 (編)	国際関係の論点——グローバル・ガバナンスの視点から	文眞堂
緒方 貞子 (著)、野林 健、納家 政嗣 (編)	聞き書 緒方貞子回顧録	岩波書店
押村 高 (編)	政治概念の歴史的展開 第7巻	晃洋書房
ゲイリー・ガーツ、ジェイムズ・マホニー (著)、西川 賢、今井 真土 (訳)	社会科学のパラダイム論争——2つの文化の物語	勁草書房
角倉 一郎	ポスト京都議定書を巡る多国間交渉——規範的アイデアの衝突と調整の政治力学	法律文化社
川島 正樹 (編)	記憶の共有をめざして——第二次世界大戦終結70周年を迎えて (南山大学地域研究センター共同研究シリーズ)	行路社
吉川 元	国際平和とは何か——人間の安全を脅かす平和秩序の逆説	中公叢書
コリン・グレイ (著)、奥山 真司 (訳)	現代の戦略	中央公論新社
小菅 信子 (編)	原典でよむ20世紀の平和思想	岩波現代全書
小谷 賢	インテリジェンスの世界史——第二次世界大戦からスノーデン事件まで	岩波現代全書
坂本 義和	平和研究の未来責任	岩波書店
佐島 隆、佐藤 史郎、岩崎 真哉、村田 隆志 (編)	国際学入門——言語・文化・地域から考える	法律文化社
佐道 明広、古川 浩司 (編)	資料で学ぶ国際関係 (第2版)	法律文化社
佐野 秀太郎	民間軍事警備会社の戦略的意義——米軍が追求する21世紀型軍隊	芙蓉書房出版
佐橋 亮	共存の模索——アメリカと「二つの中国」の冷戦史	勁草書房
塩川 伸明	ナショナリズムの受け止め方——言語・エスニシティ・ネイション	三元社
篠田 英朗	国際紛争を読み解く五つの視座——現代世界の「戦争の構造」	講談社選書メチエ
芝崎 厚士	国際関係の思想史——グローバル関係研究のために	岩波書店
清水 多吉、杉之尾 宜生	物語 クラウゼヴィッツ『戦争論』	日本経済評論社
オスヴァルト・アルノルト・ゴットフリート・シュペングラー (著)、村松 正俊 (訳)	西洋の没落——世界史の形態学の素描 第2巻 世界史的展望 (ニュー・エディション)	五月書房

神余 隆博、星野 俊也、戸崎 洋史、佐渡 紀子 (編)	安全保障論——平和で公正な国際社会の構築に向けて (黒澤満先生古稀記念)	信山社出版
滝田 賢治、大芝 亮、都留 康子 (編)	国際関係学——地球社会を理解するために	有信堂高文社
リチャード・タック (著)、萩原 能久 (監訳)	戦争と平和の権利——政治思想と国際秩序 グロティウスからカントまで	風行社
土屋 大洋	サイバーセキュリティと国際政治	千倉書房
寺島 俊徳	戦争をなくすための平和学	法律文化社
西川 吉光	国際政治ハンドブック——世界情勢と国際紛争を読み解く	三恵社
墓田 桂	国内避難民の国際的保護——越境する人道行動の可能性と限界	勁草書房
初瀬 龍平、松田 哲 (編)	人間存在の国際関係論——グローバル化のなかで考える	法政大学出版局
初瀬 龍平、松田 哲、戸田 真紀子 (編)	国際関係のなかの子どもたち	晃洋書房
ピーター・ビオット (著)、宮田 一雄、大村 朋子 (訳)	ノー・タイム・トゥ・ルーズ——エボラとエイズと国際政治	慶應義塾大学出版会
ハリー・ヒンズリー (著)、佐藤 恭三 (訳)	権力と平和の模索——国際関係史の理論と現実	勁草書房
細谷 雄一 (編)	戦後アジア・ヨーロッパ関係史——冷戦・脱植民地化・地域主義	慶應義塾大学出版会
エリック・ホブズボーム (著)、木畑 洋一、後藤 春美、菅 靖子、原田 真見 (訳)	破断の時代——20世紀の文化と社会	慶應義塾大学出版会
益田 実、池田 亮、青野 利彦、齋藤 嘉臣	冷戦史を問いなおす——「冷戦」と「非冷戦」の境界	ミネルヴァ書房
マーク・マゾワー (著)、依田 卓巳 (訳)	国際協調の先駆者たち——理想と現実の200年	NTT出版
マーク・マゾワー (著)、池田 年穂 (訳)	国連と帝国——世界秩序をめぐる攻防の20世紀	慶應義塾大学出版会
三船 恵美 (著)	基礎から学ぶ国際関係論 (改訂版)	泉文堂
武者小路 公秀 (著)、三橋 利光、松本 行広 (監訳)、武者小路研究会 (訳)	国際社会科学講義——文明間対話の作法	国際書院
村田 晃嗣、君塚 直隆、石川 卓、栗栖 薫子、秋山 信将	国際政治学をつかむ (新版)	有斐閣
山田 文比古	外交とは何か——パワーか？／知恵か？	法律文化社
吉川 直人、野口 和彦 (編)	国際関係理論 (第2版)	勁草書房
エーリヒ・ルーデンドルフ (著)、伊藤 智	ルーデンドルフ 総力戦	原書房
渡部 茂己、望月 康恵 (編)	国際機構論 総合編	国際書院

#### [日本関係]

有馬 龍夫 (著)、竹中 治堅 (編)	対欧米外交の追憶 1962-1997 上・下	藤原書店
有馬 哲夫	「スイス謀報網」の日米終戦工作——ポツダム宣言はなぜ受け入れられたか	新潮選書
有馬 哲夫	歴史とプロパガンダ——日米開戦から占領政策、尖閣問題まで	PHP研究所
五百旗頭 真、下斗米 伸夫 (著)、A・V・トルクノフ、D・V・ストレリツォフ (編)	日ロ関係史——パラレル・ヒストリーの挑戦	東京大学出版会
伊藤 信哉、萩原 稔 (編)	近代日本の対外認識 1	彩流社
伊藤 隆	歴史と私——史料と歩んだ歴史家の回想	中公新書
井上 寿一	終戦後史 1945 - 1955	講談社選書メチエ
猪口 孝 (監修・編)	日本とロシア——真逆か、相違か？ (現代日本の政治と外交 6)	原書房
猪口 孝 (監修・編)	日本と韓国——互いに敬遠しあう関係 (現代日本の政治と外交 7)	原書房
ロバート・D・エルドリッチ (著)、吉田 真吾、中島 琢磨 (訳)	尖閣問題の起源——沖縄返還とアメリカの中立政策	名古屋大学出版会
遠藤 乾 (編)	グローバル・コモンズ (シリーズ 日本の安全保障 第8巻)	岩波書店

遠藤 誠治 (編)	日米安保と自衛隊 (シリーズ 日本の安全保障 第2巻)	岩波書店
大沼 保昭 (著), 江川 紹子 (聞き手)	「歴史認識」とは何か——対立の構図を超えて	中公新書
奥 健太郎、河野 康子 (編)	自民党政治の源流——事前審査制の史的検証	吉田書店
笠原 考太	日ソ張鼓峯事件史	錦正社
辛島 理人	帝国日本のアジア研究——総力戦体制・経済リアリズム・民主社会主義	明石書店
川上 高司	「無極化」時代の日米同盟——アメリカの対中宥和政策は日本の「危機の二〇年」の始まりか	ミネルヴァ書房
川崎 剛	社会科学としての日本外交研究——理論と歴史の統合をめざして	ミネルヴァ書房
川島 真 (編)	チャイナ・リスク (シリーズ 日本の安全保障 第5巻)	岩波書店
川田 稔	昭和陸軍全史 3 太平洋戦争	講談社現代新書
貴志 俊彦	日中間海底ケーブルの戦後史——国交正常化と通信の再生	吉川弘文館
北岡 伸一	門戸開放政策と日本	東京大学出版会
木宮 正史 (編)	朝鮮半島と東アジア (シリーズ 日本の安全保障 第6巻)	岩波書店
木宮 正史、李 元徳 (編)	日韓関係史 1965 - 2015 1 政治	東京大学出版会
小風 秀雅、季武 嘉也 (編)	グローバル化のなかの近代日本——基軸と展開	有志舎
小暮 実徳	幕末期のオランダ対日外交政策——「国家的名声と実益」への挑戦	彩流社
小代 有希子	1945 予定された敗戦——ソ連進攻と冷戦の到来	人文書院
後藤 敦史	開国期徳川幕府の政治と外交	有志舎
後藤 乾一	近代日本の「南進」と沖縄	岩波現代全書
小林 英夫	関東軍とは何だったのか——満州支配の実像	KADOKAWA
ユハ・サウナワラ (著), 原谷 友香 (訳)	GHQ/SCAPと戦後の政治再建——占領計画や政策における日本保守主義者たち	大学教育出版
櫻井 良樹	華北駐屯日本軍——義和団から盧溝橋への道	岩波現代全書
櫻澤 誠	沖縄現代史——米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで	中公新書
佐道 明広	自衛隊史——防衛政策の七〇年	筑摩新書
佐藤 元英	外務官僚たちの太平洋戦争	NHKブックス
島袋 純、阿部 浩己 (編)	沖縄が問う安全保障 (シリーズ 日本の安全保障 第4巻)	岩波書店
下斗米 伸夫 (編)	日ロ関係 歴史と現代 (法政大学現代法研究所叢書)	法政大学出版局
庄司 貴由	自衛隊海外派遣と日本外交——冷戦後における人的貢献の模索	日本経済評論社
白鳥 潤一郎	「経済大国」日本の外交——エネルギー資源外交の形成 1957～1974年	千倉書房
鈴木 一人 (編)	技術・環境・エネルギーの連動リスク (シリーズ日本の安全保障 第7巻)	岩波書店
高橋 豊	日本の近代化を支えた文化外交の軌跡——脱亜入欧からクール・ジャパンまで	福村出版
武貞 秀士	東アジア動乱——地政学が明かす日本の役割	角川oneテーマ21
武田 悠	「経済大国」日本の対米協調——安保・経済・原子力をめぐる試行錯誤 1975～1981年	ミネルヴァ書房
千々和 泰明	変わりゆく内閣安全保障機構——日本版NSC成立への道	原書房
趙 世暎 (著), 姜 喜代 (訳)	日韓外交史——対立と協力の50年	平凡社
筒井 清忠	満州事変はなぜ起きたのか	中公選書
恒川 恵市 (編)	大震災に学ぶ社会科学 第7巻 大震災・原発危機下の国際関係	東洋経済新報社
手嶋 泰伸	日本海軍と政治	講談社現代新書
東郷 和彦、波多野 澄雄 (編)	歴史問題ハンドブック	岩波現代全書
戸谷 由麻	不確かな正義——BC戦犯裁判の軌跡	岩波書店
豊下 檜彦	昭和天皇の戦後日本——“憲法・安保体制”にいたる道	岩波書店
豊田 祐基子	日米安保と事前協議制度——「対等性」の維持装置	吉川弘文館

奈良岡 聰智	対華二十一カ条要求とは何だったのか——第一次世界大戦と日中対立の原点	名古屋大学出版会
成田 龍一、吉田 裕 (編)	記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争 (岩波講座 アジア・太平洋戦争 戦後)	岩波書店
波多野 澄雄	宰相鈴木貫太郎の決断——「聖断」と戦後日本	岩波現代全書
服部 龍二	外交ドキュメント 歴史認識	岩波新書
服部 龍二	中曾根康弘——「大統領的首相」の軌跡	中公新書
原 彬久	戦後政治の証言者たち——オーラル・ヒストリーを往く	岩波書店
春名 展生	人口・資源・領土——近代日本の外交思想と国際政治学	千倉書房
春名 幹男	仮面の日米同盟——米外交機密文書が明かす真実	文春新書
平野 龍二	日清・日露戦争における政策と戦略——「海洋限定戦争」と陸海軍の協同	千倉書房
福永 文夫 (編)	第二の「戦後」の形成過程——1970年代日本の政治的・外交的再編	有斐閣
藤田 文子	アメリカ文化外交と日本——冷戦期の文化と人の交流	東京大学出版会
アンソニー・ベスト (著), 武田 知己 (訳)	大英帝国の親日派	中公叢書
法眼 健作 (著), 加藤 博章、服部 龍二、竹内 桂、村上 友章 (編)	元国連事務次長 法眼健作回顧録	吉田書店
細谷 雄一	戦後史の解放 1 歴史認識とは何か——日露戦争からアジア太平洋戦争まで	新潮選書
堀 真清	近代日本の国家政治——ナショナリズムと歴史認識	早稲田大学出版部
松田 武	対米依存の起源——アメリカのソフト・パワー戦略	岩波現代全書
松田 利彦 (編)	東亜聯盟運動と朝鮮・朝鮮人——日中戦争期における植民地帝国日本の断面	有志舎
松村 昌廣	米國覇権の凋落と日本の国防	芦書房
宮城 大蔵 (編)	戦後日本のアジア外交	ミネルヴァ書房
三宅 正樹	近代ユーラシア外交史論集——日露独中の接近と抗争	千倉書房
谷野 作太郎 (著), 服部 龍二、若月 秀和	外交証言録 アジア外交と歴史認識	岩波書店
山田 朗	近代日本軍事力の研究	校倉書房
山本 智之	「聖断」の終戦史	NHK出版新書
山本 英政	米兵犯罪と日米密約——「ジラード事件」の隠された真実	明石書店
吉澤 文寿	日韓会談1965——戦後日韓関係の原点を検証する	高文研
若林 千代	ジープと砂塵——米軍占領期沖縄の政治社会と東アジア冷戦 1945-1950	有志舎
和田 春樹	「平和国家」の誕生——戦後日本の原点と変容	岩波書店

#### [アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係]

池内 恵	イスラーム国の衝撃	文春新書
石井 米雄 (著), 飯島 明子 (解説)	もうひとつの「王様と私」	めこん
今井 宏平	中東秩序をめぐる現代トルコ外交——平和と安定の模索	ミネルヴァ書房
上村 威	文化と国家アイデンティティの構築——関係 (グェンシー) と中国外交 (現代中国地域研究叢書)	勁草書房
エズラ・F・ヴォーゲル (著), 橋爪 大三郎 (編・訳)	鄧小平	講談社現代新書
梅村 卓	中国共産党のメディアとプロパガンダ——戦後満州・東北地域の歴史的展開	御茶の水書房
浦野 起央	南シナ海の領土問題——分析・資料・文献	三和書籍
遠藤 貢	崩壊国家と国際安全保障——ソマリアにみる新たな国家像の誕生	有斐閣
ロジャー・オーウェン (著), 山尾 大、溝渕 正季 (訳)	現代中東の国家・権力・政治	明石書店
岡本 隆司	袁世凱	岩波新書

小倉 紀蔵	北朝鮮とは何か——思想的考察	藤原書店
河原 昌一郎	米中台関係の分析——新現実主義の立場から	彩流社
貴志 俊彦、山本 博之	記憶と忘却のアジア (相関地域研究)	青弓社
金 伯柱	朝鮮半島冷戦と国際政治力学——対立からデタントへの道のり	明石書店
黒田 賢治	イランにおける宗教と国家——現代シーア派の実相	ナカニシヤ出版
黒柳 米司、金子 芳樹、吉野 文雄 (編)	エリア・スタディーズ ASEANを知るための50章	明石書店
慶應義塾大学東アジア研究所 (編)	アジア・アフリカ研究 現在と過去の対話 (慶應義塾大学東アジア研究所10周年 地域研究センター30周年 記念講演集)	慶應義塾大学出版会
小池 求	20世紀初頭の清朝とドイツ——多元的国際環境下の双方向性 (現代中国地域研究叢書)	勁草書房
スティーン・コーエン、スニル・ダスグプタ	インドの軍事力近代化——その歴史と展望	原書房
近藤 則夫	現代インド政治	名古屋大学出版会
坂井 一成 (編)	地域と理論から考えるアジア共同体	芦書房
佐藤 公彦	中国の反外国主義とナショナリズム——アヘン戦争から朝鮮戦争まで	集広舎
デイビッド・シャンボア (著)、加藤 祐子	中国グローバル化の深層——「未完の大国」が世界を変える	朝日選書
高橋 伸夫 (編)	現代中国政治研究ハンドブック (慶應義塾大学東アジア研究所 現代中国研究シリーズ)	慶應義塾大学出版会
田所 昌幸 (編)	台頭するインド・中国	千倉書房
土屋 貴裕	現代中国の軍事制度——国防費・軍事費をめぐる党・政・軍関係 (現代中国地域研究叢書)	勁草書房
戸田 真紀子	貧困、紛争、ジェンダー——アフリカにとっての比較政治学	晃洋書房
長尾 賢	検証 インドの軍事戦略——緊張する周辺国とのパワーバランス	ミネルヴァ書房
長崎 暢子、堀本 武功、近藤 則夫 (編)	現代インド 3 深化するデモクラシー	東京大学出版会
中嶋 嶺雄 (著)、『中嶋嶺雄著作選集』編集委員会 (編)	香港・台湾への視座 (中嶋嶺雄著作選集 5)	桜美林大学北東アジア総合研究所
中村 聡	宣教師たちの東アジア——日本と中国の近代化とプロテスタント伝道書	勉誠出版
根本 敬	アウンサンスーチーのビルマ——民主化と国民和解への道	岩波全書
花田 吉隆	東ティモールの成功と国造りの課題——国連の平和構築を越えて	創成社新書
濱下 武志、平勢 隆郎 (編)	中国の歴史——東アジアの周縁から考える	有斐閣アルマ
福原 裕二	北東アジアと朝鮮半島研究	国際書院
藤田 拓之	居留民の上海——共同租界行政をめぐる日英の協力と対立	日本経済評論社
古田 元夫	ベトナムの世界史——中華世界から東南アジア世界へ (増補新装版)	東京大学出版会
堀本 武功	インド 第三の大国へ	岩波書店
丸川 哲史	中国ナショナリズム——もう一つの近代をよむ	法律文化社
柳 英武	東アジアにおける近代条約関係の成立	龍溪書房
湯浅 剛	現代中央アジアの国際政治——ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立	明石書店
兪 敏浩	国際社会における日中関係——1978 - 2001年の中国外交と日本 (現代中国地域研究叢書)	勁草書房
林 聖愛	中韓関係と北朝鮮——国交正常化をめぐる「民間外交」と「党際外交」	小石川ユニット

#### [アメリカ・ヨーロッパ関係]

飯田 洋介	ビスマルク——ドイツ帝国を築いた政治外交術	中公新書
石井 修	覇権の罅——米国のアジア政策とは何だったのか	柏書房

石田 勇治	ヒトラーとナチ・ドイツ	講談社現代新書
稲川 照芳	ドイツ外交史——プロイセン、戦争・分断から欧州統合への道	えにし書房
アンネッテ・ヴァインケ (著), 板橋 拓己	ニュルンベルク裁判——ナチ・ドイツはどのように裁かれたのか	中公新書
白井 陽一郎 (編)	EUの規範政治——グローバルヨーロッパの理想と現実	ナカニシヤ出版
梅原 季哉	戦火のサラエボ100年史——「民族浄化」もう一つの真実	朝日選書
小川 了	第一次大戦と西アフリカ——フランスに命を捧げた黒人部隊「セネガル歩兵」	刀水書房
ティモシー・F・ガイトナー (著), 伏見 威	ガイトナー回顧録——金融危機の真相	日本経済新聞出版社
ダナ・R・ガバッチア (著), 一政 (野村) 史織 (訳)	移民からみるアメリカ外交史	白水社
ジョン・キーガン (著), 富山 太佳夫 (訳)	チャーチル——不屈の指導者の肖像	岩波書店
アンソニー・ギデنز (著), 脇阪 紀行 (訳)	揺れる大欧州——未来への変革の時	岩波書店
木村 汎	ブーチン——人間的考察	藤原書店
スティーブン・キンザー (著), 渡辺 惣樹	ダレス兄弟——国務長官とCIA長官の秘密の戦争	草思社
ヒラリー・ロダム・クリントン (著), 日本経済新聞社 (訳)	困難な選択 上・下	日本経済新聞出版社
ロバート・ゲーツ (著), 井口 耕二、熊谷 玲美、寺町 朋子 (訳)	イラク・アフガン戦争の真実——ゲーツ元国防長官回顧録	朝日新聞出版
ジョージ・フロスト・ケナン (著), 関 元	二十世紀を生きて——ある個人と政治の哲学	中公クラシックス
児玉 昌己	欧州統合の政治史——EU誕生の成功と苦悩	芦書房
近藤 和彦 (編)	ヨーロッパ史講義	山川出版社
櫻田 大造	NORAD 北米航空宇宙防衛司令部 (関西学院大学研究叢書)	中央公論新社
芝 健介	ニュルンベルク裁判	岩波書店
清水 聡	東ドイツと「冷戦の起源」	法律文化社
庄司 克宏	欧州連合漂流	東洋経済新報社
杉田 米行 (編)	第二次世界大戦の遺産——アメリカ合衆国	大学教育出版
鈴木 均	サッチャーと日産英国工場——誘致交渉の歴史 1973-1986年	吉田書店
高田 和夫	帝政ロシアの国家構想——1877-78年 露土戦争とカフカース統合	山川出版社
玉木 俊明	ヨーロッパ覇権史	ちくま新書
對馬 辰雄	ヒトラーに抵抗した人々——反ナチ市民の勇気とは何か	中公新書
土田 宏	アメリカ50年——ケネディの夢は消えた?	彩流社 [フィギュール彩]
田 浩士	ヴァイマル憲法とヒトラー——戦後民主主義からファシズムへ	岩波現代全書
富樫 耕介	チェチェン——平和定着の挫折と紛争再発の複合的メカニズム	明石書店
トクヴィル (著), 岩永 健吉郎 (訳)	アメリカにおけるデモクラシーについて	中公クラシックス
ジョセフ・S・ナイ (著), 村井 浩紀 (訳)	アメリカの世紀は終わらない	日本経済新聞出版社
中嶋 洋平	ヨーロッパとはどこか——統合思想から読む二〇〇〇年の歴史	吉田書店
長島 怜央	アメリカとグアム——植民地主義、レイシズム	有信堂高文社
中西 輝政	大英帝国衰亡史 (新装版)	PHP研究所
西川 賢	分極化するアメリカとその起源——共和党中道路線の盛衰	千倉書房
肥田 進	集団的自衛権とその適用問題——「穏健派」ダレスの関与と同盟への適用批判 (名城大学法学会選書)	成文堂
福富 満久	Gゼロ時代のエネルギー地政学——シェール革命と米国の新秩序構想	岩波新書
松岡 完	ケネディはベトナムにどう向き合ったか——JFKとゴ・ジン・ジェムの暗闘	ミネルヴァ書房
松尾 秀哉	連邦国家 ベルギー——繰り返される分裂危機	吉田書店

ドン・マントン、デイヴィッド・A・ウエルチ（著），田所 昌幸、林 晟一（訳）	キューバ危機——ミラー・イメージングの罠	中央公論新社
村上 勇介（編）	21世紀ラテンアメリカの挑戦——ネオリベラリズムによる亀裂を超えて（地域研究のフロンティア）	京都大学学術出版会
横手 慎二	ロシアの政治と外交	放送大学教育振興会
渡邊 啓貴	現代フランス——「栄光の時代」の終焉、欧州への活路	岩波現代全書

**【資料】**

浅野 豊美、吉澤 文寿（編）	日韓国交正常化問題資料 第4期 1963年～1965年 日本側資料	現代史料出版
アメリカ合衆国商務省センサス局（編），鳥居 泰彦（監訳）	現代アメリカデータ総覧 2012	終風舎
石井 修（監修）	アメリカ合衆国対日政策文書集成 第XXXVI期～第XXXVII期	柏書房
外務省（編）	日本外交文書 昭和期 III 関係調書集	白峰社
宮内庁（編）	昭和天皇実録 第一～第四	東京書籍
国際連合経済社会情報・政策分析局（著），原書房（訳）	国際連合 世界人口予測 1960→2060（2015年改訂版）	原書房
柴 宜弘、伊東 孝之、南塚 信吾、直野 敦、萩原 直（監修）	東欧を知る事典（新版）	平凡社
日本軍縮学会（編）	軍縮辞典	信山社出版
広瀬 順皓（監修）	戦争調査会事務局書類 第1巻～第9巻	ゆまに書房
ゆまに書房出版部（編）	戦後日中交流年誌 1～9	ゆまに書房
吉田 裕、森 武麿、伊香 俊哉、高岡 裕之	アジア・太平洋戦争辞典	吉川弘文館

論文(国際政治・外交史)

【一般】

秋山信将	核技術ガバナンスの態様－転換点としての一九七〇年代	国際政治179
飯田敬輔	国際政治における合理的選択	国際政治181
池上清子	女性の健康と権利をめぐる国連と国際社会の動き－性と生殖に関する健康と権利(SRH/R)の分析を中心に	国連研究16
石黒馨	官邸主導のTPP交渉と政治経済改革－2レベルゲーム分析	国際政治181
岩崎徹也	価格崩落下の国際石油市場	中東研究525
岩波由香里	平和維持活動の創設をめぐる国連と地域的機構の不完備情報ゲーム	国際政治181
植木俊哉	国際組織による感染症対策に関する国際協力の新たな展開	国際問題642
近江美保	国連におけるジェンダー主流化と貿易自由化－UNCTADによる試み	国連研究16
大山貴稔	「国際貢献」に見る日本の国際関係認識－国際関係理論再考	国際政治180
乙部延剛	政治理論にとって現実とはなにか：政治的リアリズムをめぐる	年報政治学2015-II
上野友也	「女性・平和・安全保障」－国連安保理決議1325(2000)の履行に向けた制度化を中心に	国連研究16
軽部恵子	女性の権利およびジェンダーの平等の発展過程－国連で採択された国際人権文書を中心に	国連研究16
木山幸輔	社会実験とリパタリアン・パターンリズムは世界の貧困を救う？－援助の新潮流に関する政治理論的一考察	年報政治学2015-I
Kurizaki, Shuhei and Taehee Whang	Detecting Audience Costs in International Disputes	International Organization69(4)
河野勝・三村憲弘	他者への支援を動機づける同情と憐れみ	年報政治学2015-I
小濱祥子	国際危機における単独防衛－効果とメカニズム	国際政治181
今野秀洋	通商政策の転換－GATT/WTO体制からFTA・TPPへ	国際問題638
崔 正勲	リベラル・パラドックスが持つ国際危機研究への示唆－第1次朝鮮戦争核危機を事例として	国際政治181
佐藤丙午	技術開発と安全保障貿易管理－オープン・マーケット・アプローチと輸出管理	国際政治179
芝崎厚士	国際関係研究の将来－国際関係の研究からグローバル関係の研究へ	年報政治学2015-I
鈴木基史	レトリックの政策決定ゲーム－外交と貿易自由化の交錯	国際政治181
須田祐子	サイバーセキュリティの国際政治－サイバー空間の安全をめぐる対立と協調	国際政治179
瀬岡直	国際連合における拒否権の意義と限界－シリア紛争における中露の拒否権行使に対する批判的検討	国連研究16
大道寺隆也	国際テロリズム規制における地域的国際機構の役割－『標的制裁』への適性手続導入過程の分析から	国際政治182
高木綾	技術貿易をめぐる国内政治プロセス－米国の対中商用人工衛星の輸出規制に内在する安全保障と経済	国際政治179
高澤洋志	セキュリティタイゼーションと政治的時間の諸相－保護する責任(R2P)概念の変遷を一事例として	年報政治学2015-II
高橋博子	冷戦下の被ばく者調査	アメリカ史研究38
Atsushi Tago and Maki Ikeda	An `A` for Effort: Experimental Evidence on UN Security Council Engagement and Support for US Military Action in Japan	British Journal of Political Science 45(2)
谷口洋幸	国連と性的指向・性自認－人権理事会SOGI決議の意義	国連研究16
田村恵理子	統治者としての国際連合に対する人権上の制約－国連コソヴォ暫定統治機構の実行を中心に	国連研究16



千葉大奈	「強い」停戦合意協定は持続的な平和を導くか	国際政治181
Daina Chiba, Lanny W. Martin, Randolph T. Stevenson	A Copula Approach to the Problem of Selection Bias in Models of Govern	Political Analysis23(1)
Daina Chiba, Jesse C. Johnson, Brett Ashley Leeds	Careful Commitments: Democratic States and Alliance Design	Journal of Politics77(4)
津崎直人	冷戦後の国連総会における核軍縮議論(1994-2013年) -日本、非同盟運動諸 国、新アジェンダ連合提出核軍縮決議の比較検討	国連研究16
土屋大洋	サイバーセキュリティとインテリジェンス機関 -米英における技術変化のイン	国際政治179
中谷直司	同盟はなぜ失われたのか -日英同盟の終焉過程	国際政治180
中村文子	国連機関とジェンダー・センシティブなリージョナル・ガバナンス -大メ コン川流域地区における人身売買対策とUNIPAPを事例として	国連研究16
島山京子	国内規範と合理的選択の相克 -武器輸出三原則を事例として	国際政治181
林光	覇権国による安心供与装置としてのマルチラテラリズム	国際政治181
Ulrich Pilster, Tobias Böhmelt, and Atsushi Tago	Political Leadership Changes and the Withdrawal from Military Coalition Operations, 1946-2001	International Studies Perspectives16(4)
Srdjan Vucetic and Atsushi Tago	Why Buy American?: The International Politics of Fighter Jet Transfers	Canadian Journal of Political Science48(1)
本間正義	世界の農業と食料安全保障	国際問題639
宮下豊	ニーバーとバターフィールドにおける自己義認批判 -誤読された原罪説と 『ホッブズの恐怖』	国際政治180
宮岡勲	軍事技術の同盟国への拡散 -英国と日本による米軍の統合情報システムの模	国際政治179
薬師寺公夫	グローバル化と国際人権 -国連の人権保障制度における国際機関と国家	国際問題642
山田敦	科学技術と現代国際関係	国際政治179
横井幸生	国際植物防疫条約(IPPC)の役割と機能および関連貿易紛争の概観	国連研究16
吉田直未	国際制度の競争歪曲効果 -日本企業の技術力と国際標準化制度	国際政治179

### 【日本関係】

五百旗頭真	吉田路線の盛衰	国際問題638
井形彬	「国家安全保障戦略」の作成過程 -第2次安倍政権下の3つの懇談会	国際安全保障42(4)
石橋章市郎・岡本哲和	国会議員による国会審議映像の利用 -その規定要因についての分析	レヴァイアサン56
入江昭	戦後世界の日本	国際問題644
大八木豪	マイク・マサオカと日本人短期農業労働者導入プログラム -人種化、冷戦の 地政学、戦時強制収容の記憶	アメリカ史研究38
片田さおり	アメリカのTPP政策と日本	国際問題644
兼原信克	国際社会の組織化と日本	国際問題642
木下健	国会審議の映像情報と文字情報の認知的差異 -政治コミュニケーション論に よる実証分析	レヴァイアサン56
木宮正史	日本にとって朝鮮戦争とは -歴史の再解釈と、その現代的含意	アジア研究61(2)
黒崎輝	日本核武装研究(一九六八年)とは何だったか -米国政府の分析との比較の 視点から	国際政治182
子安昭子	日本・ブラジル関係史120年 -相互補完を超え「共に(juntos)」へ	国際問題645
境家史郎	戦後日本における政党間イデオロギー配置と投票参加行動	レヴァイアサン57
佐道明広	冷戦終結とPKOへの参加 -自衛隊の海外派遣	国際問題638
島内憲	混迷を深めるブラジルと日本	国際問題645

生源寺眞一	日本の食料と農業	国際問題639
竹中佳彦・遠藤晶久・W・ジョウ	有権者の脱イデオロギーと安倍政権	レヴァイアサン57
谷口将紀	日本における左右対立(2003年～14年)－政治家・有権者調査を基に	レヴァイアサン57
土山實男	日米同盟における「忠誠と反逆」－同盟の相剋と安全保障ジレンマ	国際問題644
中林啓修	沖縄からみた「国家安全保障戦略」	国際安全保障42(4)
濱田江里子	日本とイギリスにおける若年就労支援政策と福祉国家再編	年報政治学2015-II
樋口真魚	国際連盟脱退後の日本と通商均等待遇問題－日英二国間交渉と連盟外交の交錯	国際政治181
藤田文子	日米文化交流－二国間から多国間の交流へ	国際問題644
布施哲	予算面から見る「国家完全保障戦略」の実効性	国際安全保障42(4)
増山幹高・竹田香織	いかに見たい国会審議映像に到達するか?－国会審議映像検索システムの概要	レヴァイアサン56
松浦淳介	東日本大震災の発生と日本の国会政治－映像資料を用いた与野党関係の分析	レヴァイアサン56
K・M・マッケルウェイン(豊福実紀訳)	株価か格差か－内閣支持率の客観的・主観的経済要因	レヴァイアサン57
Tessa Morris-Suzuki	Japan and the Korean War: A Cross-Border Perspective	アジア研究61(2)
宮城大蔵	サンフランシスコ講和と吉田路線の選択	国際問題638
山本章子	米国の海外基地政策としての安保改定－ナッシュ・レポートをめぐる米国政府内の検討	国際政治182

#### 【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

麻田雅文	中国長春鉄道の返還をめぐる中ソ関係、1949-1952年	アジア研究61(1)
青木健太	ターリバーンとアフガニスタン政府の和平協議－ムッラー・ウマルの死とその	中東研究524
安周永	韓国政党政治における「直接行動」の意義と限界－ろうそくデモと政党の変化を中心に	比較政治学会年報17
池田明史	石油危機と中東外交の「転換」	国際問題638
石黒大岳	サウジアラビアの後継問題と統治構造の変化	中東研究523
伊藤融	インドにおける政権交代と近隣政策の新展開	国際安全保障43(1)
Koonsam Im	Korean Exchange Rate and FTAs under the Roh Moo-hyun Administration	International Relations of the Asia-Pacific15(2)
岩坂将充	トルコにおける政軍関係の変容－軍の権益の段階的縮小と今後の展望	中東研究524
岩崎えり奈	チュニジアの2014年選挙と地域	中東研究524
宇山智彦	中央アジア諸国からみた国際環境の変化と対応－ロシアの政治的・軍事的影響力と中国の経済進出	国際問題647
江崎智絵	アラブ諸国の政治変動における軍と武装非国家主体の台頭	国際安全保障43(3)
江藤名保子	中国の公定ナショナリズムにおける反「西洋」のダイナミズム	アジア研究61(4)
Ralf Emmers and Sarah Teo	Regional Security Strategies of Middle Powers in the Asia-Pacific	International Relations of the Asia-Pacific15(2)
岡本巖	日中経済関係の今後の展望と課題	国際問題640
帯谷俊輔	中国の対外紛争の国際連盟提起をめぐる国際関係、一九二〇―一九三二―中国代表権問題の浮上と日本、イギリス、中国	国際政治180
鏡武	中東－不安定化の実態	中東研究523
籠谷公司・木村幹	韓国政治指導者の合理的選択としての対日敵対行動－経済的相互依存と政治的責任回避の視点から	国際政治181
笠井亮平	イスラーム過激派組織とインドの安全保障－アル・カイダと「イスラーム国」が投げかける新たな脅威	国際安全保障43(1)
金子真夕	2015年トルコ総選挙－人民の民主主義党の躍進とエルドアン大統領の「敗北」	中東研究524

加茂佳彦	日・UAE関係と最近のUAE情勢	中東研究524
川嶋淳司	アラビア半島の震源地イエメン	中東研究523
川端隆史	「ハラル・ビジネス」のブーム化と課題—マスメディアの論調から読み解く	中東研究523
河原昌一郎	中国食糧政策の選択	国際問題639
関志雄	中国経済の「新常态」	国際問題640
神田英宣	インドの海洋安全保障 —インド洋ブルーウォーター戦略の課題	国際安全保障43(1)
菊池努	大国政治の変動と東南アジア—ASEAN政治安全保障共同体の狙いと課題	国際問題646
Ji Young Kim	Rethinking the Role of Identity Factors: the History Problem and the Japan-South Korea Security Relationship in the post-Cold War Period	International Relations of the Asia-Pacific15(3)
木村福成	ASEAN経済共同体—成果と課題	国際問題646
Kai Quek	Discontinuities in Signaling Behavior upon the Decision for War: An Analysis of China's Prewar Signaling Behavior	International Relations of the Asia-Pacific15(2)
倉田徹	嵐のなかで自由を抱きしめる—「中国化」と香港の自由	国際問題643
栗田真広	イラン核合意と南アジア—パキスタンの視点から	中東研究525
小嶋華津子	習近平政権と「法治」	国際問題640
小松久男	歴史のなかの中央アジア—ゼンギーアタからの眺望	国際問題647
駒野欽一	核問題合意のイラン国内政治への影響	中東研究525
近田亮平	労働者党政権下の社会的公正	国際問題645
櫻井武司	アフリカの食料安全保障—食料価格高騰と大規模農地開発問題	国際問題639
佐藤悠子	文化大革命期中国におけるインシュタイン批判—科学・政治・国際関係	国際政治179
澤田眞治	ブラジルのハイテク政策と対外関係—軍民両用技術の移転、管理、市場	国際政治179
澤田眞治	転換期のブラジル外交—地域主義、多極主義、自律性	国際問題645
清水学	習近平政権の中央アジア戦略—「一带一路」との関係で	国際問題647
篠崎正郎	イギリス軍の撤退とペルシア湾岸の安全保障、1968-71年	国際安全保障43(2)
首藤もと子	ASEAN社会文化共同体に向けて—現況と課題	国際問題646
末近浩太	クサイルからの道—ヒズブッラーによるシリア「内戦」への軍事介入の拡大	中東研究525
鈴木一人	イラン核合意の米・イラン関係への影響	中東研究525
須藤繁	原油価格の下落と湾岸産油国	中東研究523
Xinyuan Dai	Who Defines the Rules of the Game in East Asia? The Trans-Pacific Partnership and the Strategic Use of International Institutions	International Relations of the Asia-Pacific15(1)
高尾賢一郎	「ヒスバ」から見る「イスラーム国」の統治	中東研究523
高橋雅英	油価下落に直面するアルジェリア—レント収入の再分配政策の継続性	中東研究524
立山良司	変化する中東の安全保障環境	国際安全保障43(3)
田中哲二	中央アジアへの視点と関与	国際問題647
玉田芳史	タイにおける脱民主化とナショナリズム	アジア研究61(4)
溜和敏	「インド太平洋」概念の普及課程	国際安全保障43(1)
Dean P. Chen	Security, Domestic Divisions, and the KMT's Post-2008 'One China' Policy: a Neoclassical Realist Analysis	International Relations of the Asia-Pacific15(2)
張 雪斌	台頭する中国のパブリック・ディプロマシー（公共外交）—概念の変容を促す	アジア研究61(3)
John D. Ciorciari	A Chinese Model for Patron-client Relations? The Sino-Cambodian Partnership	International Relations of the Asia-Pacific15(2)
陳 嵩	中国で反日デモに参加したいと思っていたのはどんな人たちなのか? —2012年反日デモ直前の市民意識調査から	アジア研究61(2)

辻田俊哉	イラン核合意と中東における地域秩序－「機会」と「脅威」をめぐる認識の相違とその含意	国際安全保障43(3)
鶴田綾	ルワンダにおける歴史認識と民族対立	国際政治180
鄭成	1950年代初期における中ソ間の文化交流－上海の中ソ友好月間キャンペーンを中心に	アジア研究61(1)
中西嘉宏	戦略的依存からバランス志向へ－ミャンマー外交と対中国関係の現在	国際問題643
中村覚	サウディアラビア・イラン間の安全保障のジレンマ－全方位均衡論の応用から	中東研究525
中溝和弥	経済成長と宗教ナショナリズム－2014年総選挙から見たインド社会	アジア研究61(4)
袴田茂樹	ロシア、プーチン大統領の中央アジア戦略	国際問題647
朴一	在日コリアンからみた朝鮮戦争	アジア研究61(2)
間寧	AKP政権下のトルコ経済	中東研究524
羽田浩二	イラン核合意とイラン情勢	中東研究525
浜中新吾・白谷望	正統性をめぐるパズルーモロッコにおける君主制と議会政治	比較政治研究1
浜中新吾	エジプト革命におけるソーシャル・メディアの役割	年報政治学2015-II
Kaewkamol Pitakdumrongkit	Coordinating the South China Sea Issue: Thailand's Roles in the Code of Conduct Development	International Relations of the Asia-Pacific15(3)
広瀬崇子	インドをめぐる安全保障問題の現在	国際安全保障43(1)
堀坂浩太郎	新興国ブラジルの新たな危機と挑戦	国際問題645
本名純	インドネシアの選挙政治における排他的ナショナリズム－2014年プラボウォの	アジア研究61(4)
Michael I. Magcamit and Alexander C.	Crouching Tiger, Lurking Dragon: Understanding Taiwan's Sovereignty and Trade Linkages in the Twenty-first Century	International Relations of the Asia-Pacific15(1)
Joseph MacKay	Rethinking the IR theory of Empire in Late Imperial China	International Relations of the Asia-Pacific15(1)
松田康博	習近平政権の外交政策－大国外交・周辺外交・地域構想の成果と矛盾	国際問題640
松永泰行	あの「聖なる防衛」をもう一度か?－イラン・イスラーム革命防衛隊のイラクの対「イスラーム国」戦争支援の背景	中東研究524
松村史紀	未熟な中ソ分業体制(1949-1954年)－世界労連アジア連絡局を手がかりに	アジア研究61(1)
湊邦夫	モンゴル－圧倒的な「南の隣人」への反感と現実認識	国際問題643
三船恵美	インドの安全保障関係をめぐる中国認識	国際安全保障43(1)
村上拓哉	湾岸地域における新たな安全保障秩序の模索－GCC諸国の安全保障政策の軍事化と機能的協力の進展	国際安全保障43(3)
村上拓哉	サウジアラビアとイランの「冷戦」－「権力闘争」か「宗教対立」か	中東研究523
森まり子	イスラエル極右の脱「周縁」－カハネからリーベルマンに至る水脈と欧米・中東の多文化共生社会の挫折	中東研究525
安田慎	ハラール・スタンダードの形成と軋轢－クレセントレーティング社におけるムスリム観光客ガイドラインを中心に	中東研究523
山影進	クオヴァディス－ASEANへの問いかけ	国際問題646
山根聡	対テロ戦争期パキスタンの政治・社会における内的変化	アジア研究61(3)
湯浅剛	ユーラシア複合危機の中のイランとロシア	中東研究525
横田貴之	エジプト・ムスリム同胞団の「挫折」－ポスト・イスラーム主義からの一考察	国際安全保障43(3)
吉田冰	中国メディアによる「批判報道」『南方週末』の事例	アジア研究61(1)
吉村貴之	「アルメニア問題」に析出する国際政治－トルコ・アルメニア関係、周辺諸国と欧米の関与	中東研究524
若林正丈	「辺境東アジア」政治のアカウンタビリティ－問題－2014年の台湾、香港、沖	国際問題643

鷺田任邦	多民族国家における政党政治と（非）デモクラシー—マレーシア与党連合内政治と閣僚配分	比較政治学会年報17
渡辺浩平	中国社会とインターネット、そして習近平	国際問題640
渡辺剛	抵抗する台湾「国民」アイデンティティ	国際問題643
Iain Watson	Middle powers and climate change: the role of KIA	International Relations of the Asia-Pacific15(3)

### 【アメリカ・ヨーロッパ関係】

安達重紀	EU化学物質政策の変化とドイツ—政策形成と実施の観点からの考察	国際政治180
池田朋洋	スペインにおける住宅ローン問題と社会運動の議会政治への進出—「住宅ローン被害者の会」からバルセロナ市政へ	ヨーロッパ研究15
池谷知明	「政党の共和国」から「大統領の共和国」へ？—イタリア第2共和制における大統領	年報政治学2015-II
市田知子	EUの食と農—「ヨーロッパ農業モデル」は実現するのか？	国際問題639
今井宏平	西洋とのつながりは民主化を保障するのか—トルコのEU加盟交渉を事例として	国際政治182
岩崎正洋	政党政治とデモクラシーの変容	比較政治学会年報17
岩田健治	EUの経済—域内収斂再建に向けた制度改革	国際問題641
岩野智	EUにおける開発協力政策と共通外交・安全保障政策のリンケージ—『アフリカ平和ファシリティ』の運用権限をめぐる機関間対立	国際政治182
臼井陽一郎	EUのマルチレベル・ガバナンス論—その統合理論としての意義の再考	国際政治182
ヨルク・エヒターンカンプ（猪狩弘美訳）	連合軍による空爆戦とドイツの戦時社会—1939-1945年—連邦共和国における想起の文化の変遷と歴史記述の傾向	ヨーロッパ研究15
遠藤幹	EUの歴史と将来—ヨーロッパはどこに向かうのか	国際問題641
岡山裕	アメリカ二大政党の分極化は責任政党化につながるか	比較政治学会年報17
小野一	2000年代ドイツにおける政党政治再編成	比較政治学会年報17
川崎健	ドイツにおける統合と代表の論理	年報政治学2015-II
川口悠子	太平洋を越える広島救援活動—戦後初期の「平和都市」イメージへの影響につ	アメリカ史研究38
川久保文紀	北米国境のテクノロジー化—「スマートな国境」の構築とその限界	国際政治179
城戸英樹	中央地方関係における政党ルートの役割—財政移転改革の日本カナダ比較	年報政治学2015-I
久瀬良子	フランス・オランダ政権下の政治的代表的制	年報政治学2015-II
倉科一希	米欧関係とアメリカの核—核兵器共有とドイツ問題	アメリカ史研究38
黒田友哉	EC/Aセアン関係の制度化—一九六七—一九七五年—EU-アジア関係の一起源をめぐる	国際政治182
小林祐介	難民問題とハンガリー政治—「未来なき黙示」？	中東研究525
Michael Cohen and Andrew O'Neil	Doubts down under: American Extended Deterrence, Australia, and the 1999 East Timor Crisis	International Relations of the Asia-Pacific15(1)
坂井一成	EUの地中海政策におけるフランスの関与と課題—移民問題のセキュリティタイゼーションをめぐる	国際政治182
篠崎正郎	サッチャー政権初期の対中東政策	軍事史学51(1)
芝井清久	欧州の核不拡散と東アジアの核拡散の因果関係—西ドイツをめぐる核不拡散交渉とその影響	国際政治180
マイク・ヘンドリック・シュプロッテ	日独外務省政策企画協議と日本の核武装問題—エゴン・バールと1969年の日本訪問	ヨーロッパ研究15

新川匠郎	ドイツとオーストリアの州における合意型の政権のパターン—概念の構造と経験的な分類に関する分析を通じて	比較政治学会年報17
Jungkun Seo	<i>Security ties or electoral connections? The US Congress and the Korea-US Free Trade Agreement, 2007-2011</i>	International Relations of the Asia-Pacific15(2)
高野麻衣子	多党化時代の政党カルテル—1920年代カナダにおける進歩党の出現と二大政党	比較政治学会年報17
竹峰誠一郎	「周辺」から眺める米核実験の歴史—マーシャル諸島住民の被曝を見据えて	アメリカ史研究38
田中俊郎	揺れるEU	国際問題641
手賀祐輔	ニクソン政権のベトナム戦争終結計画、1969年 — 「マッドマン・セオリー」による強制外交の失敗	国際安全保障43(2)
中川洋一	2013年ドイツ連邦議会選挙の分析と連邦政治への含意	年報政治学2015-I
中田瑞穂	ヨーロッパにおける政党と政党競合構造の変容—デモクラシーにおける政党の役割の終焉?	比較政治学会年報17
東野篤子	ウクライナ危機とEU—ミンスクII合意をめぐるEUと加盟諸国の外交	国際問題641
Airo Hino	Representation and Integration of New Political Issues in Party System: Analyses of New Challenger Parties in 15 West European Democracies	年報政治学2015-II
藤山一樹	英米戦債協定の成立とイギリス外交、一九二〇—一九二三年	国際政治180
松寄英也	ソ連邦の解体と事実上の国家の形成—労働集団合同評議会による沿ドニエストル共和国建設過程の解明	国際政治180
松本尚子	シュレーダー政権期の労働市場改革に見るドイツとEUの関係	ヨーロッパ研究15
三石誠司	アメリカの食と農—農場・作物・食肉を中心に	国際問題639
溝渕正季	米国の対「イスラーム国」軍事作戦をどう評価するか?	中東研究523
Hugo Meijer	Actors, Coalitions, and the Making of Foreign Security Policy: US Strategic Trade with the People's Republic of China	International Relations of the Asia-Pacific15(3)
森井裕一	転換期のヨーロッパ統合	国際政治182
森井裕一	EUの展開とドイツの役割	国際問題641
山本直	EU「共通の価値」と加盟国の法治体制—ハンガリー問題のポリティクス	国際政治182
横田正顕	南欧政治における代表と統合の背理—欧州債務危機とデモクラシーの縮退	年報政治学2015-II
渡辺博明	スウェーデンにおける代表と統合の変容—選挙連合政治の出現と右翼ポピュリスト政党の台頭	年報政治学2015-II